

日本発、世界でデファクトスタンダード足りうる潜在力を具備する本格的SPMシミュレータ開発を拝命 (<http://www.aasri.jp/pub/news/spm.pdf>)し、平成20年、日本のSPM有識者から必要機能要望を募り (http://www.aasri.jp/pub/spm/pdf/spm_needs_hide.pdf)構成ソルバー (http://www.aasri.jp/pub/spm/spm_pro.pdf)を決定。加えて、多種SPMメーカー装置に、汎用的に搭載出来る条件を検討の為に日本の有力SPM装置メーカー(A)様のSPMへの評価からヒントを得て、世界初の「実験—計算」画像比較機能を同一プラットフォーム上で実施が必須の構想を得た。 (http://www.aasri.jp/pub/spm/pdf/spm_improve_1.pdf) (http://www.aasri.jp/pub/spm/pdf/SPM_guidebook_Analyzer.pdf)

もう一つ、日本の有力SPM装置メーカー(B)様からは、密度汎関数法に基づく強結合法(第一原理計算)を採用し、計算時間をパソコン使用で6時間程度に収束させる画期的なDFTB提供を可能にする、原子間作用計算パラメーター43種類増強開発を示唆された。 (http://www.aasri.jp/pub/spm/txt/spm_report_201405.html) これら代表メーカー2社の意見に添う、世界標準仕様版・統合化「実験—計算」比較型SPMシミュレータが仕上がり、平成24年下期以降販促準備期間を経て平成26年8月から正式販売活動にはいる。

ここで普及販売視点で見ると、平成23年6月から研究者、一般ユーザーに無償供与を実施し300人程度に試用頂いた。結果は概ね評価を頂いた。 (https://www.aasri.jp/pub/spm/SPM_movie.html) 更には併行して客作リスト (http://www.aasri.jp/pub/spm/png/customer_list_jp.png)の潜在的客先個人へSPM開発関連の多種切り口(仕様、使い易さ、マニュアル、コラボ等)からSPM情報開示—斉メールを定期的に配信し、個人が興味を持ち、評価頂き、購入動機、を持てる様に、息の長い作業を実施している。海外向けには、既に1000名ほどの顧客リスト (http://www.aasri.jp/pub/spm/png/customer_list_eng.png)が出来ており、英語版対応が揃い次第、情報開示作業に入る方針です。

SPM価格は研究者向け アカデミック は120万(ソルバー8本)、ユーザー向け 240万各々に、(保守相当)著作権料/年×期間 を加えた価格ですが、潜在のお客様に先ずはご活用頂く事が第一義ですので、(保守相当)著作権料/年相当のライセンス30万円/年、の超低価格を特別措置期間(2014/8—2015/5)ご提案中です。 (http://www.aasri.jp/pub/spm/SPM_supply.html)